



ハイビスカスのミツを吸うナガサキアゲハ。奥はオオゴマダラ。ワイドレンズで30センチまで接近しても逃げない。チョウの採取や三脚を使つての撮影は禁止されている

1000匹のチョウ 冬に乱舞

関西屈指の渡り鳥飛来地の昆陽池。池の北西に一年中、生きた昆虫と触れ合える、伊丹市昆虫館（伊丹市昆陽池3）がある。

ひときわ目立つ、ガラス張り直径31メートルの半円形のチョウ温室は、昆虫館として関西一の広さを誇る。温室内は冬季でも18〜23度に保たれているので寒い季節にお勧めのスポットだ。

羽を開くと約13センチにもなる、国内最大級のオオゴマダラをはじめ、沖縄産を中心に15種、約1000匹のチョウが冬でも乱舞している。

温室の植物は約200種、4000株。チョウの好きなハイビスカスや



はんしんタイムズ

写真・文 山田哲也

伊丹市昆虫館

ブーゲンビレア、カトレアなど亜熱帯の花が無農薬で育てられている。チョウは人に慣れているせいも近づいても逃げない。ハイビスカスのミツを吸うシーンを撮ろうと待っていたところ、帽子の上にリュウキュウアサギマンダラが止まってきた。運が良ければチョウの求愛や交尾、産卵シーンが間近で観察できる。

同館は市制50周年を記念して90（平成2）年に開館した。来年1月28日まで、世界で人間が食べべている虫を集めた企画展「昆虫食〜ごはんやでえ」を開催している。12月15日と1月20日に試食会もある。



JR・阪急伊丹駅から市バス、玉田団地下車、徒歩2分。開館は午前9時半〜午後4時半。大人400円。中学生200円。3歳から小学生100円。火曜休館。問い合わせは072・785・3300。